

## 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

### 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	関係機関への女性登用事業								
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	市民協働課	係	市民活動推進係	評価票作成者	男女共同・多文化担当係長 伊藤孝士	
1-3 総合計画における施策の体系	節	交流と市民参加 「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」			基本施策	男女共同参画		コード	5 1 4
					単位施策(中)	社会的性差のない環境づくり		コード	5 1 4 2
	項	参加と協働			単位施策(小)	審議会等への積極的な女性登用		コード	5 1 4 2 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	委員会・審議会等設置担当職員等		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	政策決定等の場に、積極的に女性の視点をとり入れることで期待される効果やその重要性を認識させるため、女性の登用を促す。				
1-5 事務事業の内容	施策の策定に係わる各委員会・審議会等の男女バランスの適正化を目指し、関係機関への積極的な登用を目指す。								

### 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
平成18年度			
平成19年度	委員等の割合の目標値を定め、各課へ調査を実施し、達成に向けての課題や対策等を各課で検討。	政策決定等の場に女性の参画は必要不可欠であり、積極的に意見を取りいれていく必要がある。	男女が対等な関係であり、様々な委員会等での女性委員の登用が望まれているが、制度上の問題だけでなく、女性が役割を担うことに対する抵抗や社会参画意識の向上を図る必要がある。
平成20年度	〃	〃	〃
平成21年度	〃	〃	〃
平成22年度	政策決定等の場に、女性の参画は必要不可欠であり、積極的に意見を取りいれていく必要がある。各委員会・審議会等の男女バランスの適正化を目指し、積極的に女性の意見を取り入れていく必要がある。		
平成23年度		〃	
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	関係機関等における女性の割合(%)	30(%)	35(%)	第1次計画では30%を目標値とした。更に登用を推進するためのパーセントである。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)		93.5(%)	84.5(%)	89.7(%)	86.1(%)	90.2(%)				
	直接事業費 b (千円)		0	0	0	0	0				
	人件費 c (千円)		77	77	77	74	77				
	合計コスト d (b+c) (千円)		77	77	77	74	77				
単位コスト d/a (千円)	当たり	比率当たり 1	比率当たり 1	比率当たり 1	比率当たり 1	比率当たり 1	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績は、女性登用が0人の委員会等の排除を目的とする。  
平成23年度は36機関。内32機関に女性の登用があった。(市町村男女共同参画関係実態調査による)  
人件費は、@3,200円/時×12h×2人=76,800円

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績 (%)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度 (%)		24.8	32.4	28.9	22.8	18			

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A	A	A	A	A				

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度			
平成19年度	各団体の代表者等を充て職としている委員会等も多くあり、女性委員の増加を阻害している場合がある。		登用率調査や推進・評価を実施することにより、担当課等における女性登用の啓発を推進する。	審議会・委員会の女性委員割合は伸びは低いが増加している。積極的に女性委員の採用を促してもらえよう働きかけていく。
平成20年度	"		"	審議会・委員会の女性委員割合は伸びは低いが増加している。一般公募も視野に入れながら積極的に女性委員の採用を促してもらえよう働きかけていく。
平成21年度	"		"	各担当課に女性登用の調査をし、女性登用の実態把握した。積極的に女性委員の採用を促してもらえよう働きかけていく。
平成22年度	女性登用の調査により実態把握を行った。一般公募も視野に入れながら、積極的に女性委員の採用を促してもらえよう働きかけていく。ただし、各団体の代表者等を充て職としている委員会等も多くあり、女性委員の増加が難しい状況もある。			
平成23年度	女性登用の調査により実態把握を行った。一般公募も視野に入れながら、積極的に女性委員の採用を促してもらえよう働きかけていく。ただし、各団体の代表者等を充て職としている委員会等も多くもあるが、徐々に女性委員の増加が見られる。			
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A
平成19年度	A	継続して事業を進めること。 (51422-393「市管理職女性登用事業」、394「附属機関への積極的な女性登用事業」、395「地域役員の女性登用事業」を統合し、平成19年度より新設)
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		